



## Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、次の Cisco Unified IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- SCCP および SIP の両方に対応する Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ
- Cisco Unified IP Phone 9951 または 9971
- Cisco Unified IP Phone 8961
- Cisco Unified IP Phone 6900 ファミリ
- Cisco IP Video Phone 7985
- Cisco Unified IP SIP Phone 3911
- Cisco IP Phone 30 VIP および Cisco IP Phone 30 SP+
- Cisco IP Phone 12 S、Cisco IP Phone 12 SP、Cisco IP Phone 12 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート

回線グループまたはハント リストのメンバーである Directory Number (DN; 電話番号) に CTI ポートに関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハント リストのメンバーである場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ポートにその DN を関連付けることはできません。

- Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Unified Mobile Communicator
- Cisco ATA 186 アナログ電話アダプタ
- サードパーティ製 SIP デバイス (基本および拡張)
- IP-STE
- Cisco VG248 および VG224 ポート (アナログ電話機)

管理者は、Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway の設定を Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます)。VG248 および VG224 ポートを更新する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Analog Phone Gateway および VG224 Analog Phone Gateway の設定については、「[ゲートウェイの設定 \(P.66-1\)](#)」を参照してください。

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおける Cisco Unified IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

### 設定値

- 「電話機の設定値」 (P.67-3)
- 「電話の移行の設定」 (P.67-31)
- 「スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定値」 (P.67-31)
- 「BLF/スピードダイヤルの設定値」 (P.67-32)
- 「BLF/ダイレクトコールパークの設定値」 (P.67-33)

### 手順

- 「電話機の同期化」 (P.67-37)
- 「既存の電話機の設定の別の電話機への移行」 (P.67-35)
- 「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」 (P.67-38)
- 「IP Phone サービスの設定」 (P.67-39)
- 「サービス URL ボタンの設定」 (P.67-41)
- 「リモート接続先プロファイルへのコピー」 (P.67-42)
- 「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」 (P.67-43)
- 「現在ログイン中のデバイスの検索」 (P.67-44)
- 「リモートからログインしたデバイスの検索」 (P.67-45)
- 「電話機の MAC アドレスの表示」 (P.67-46)

『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」の章の表 42-2 では、SIP をサポートする Cisco Unified IP Phone の設定手順について説明します。

SIP を実行するサードパーティ製電話機については、付録「SIP を実行しているシスコ以外の電話機の設定」の「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト」(P.B-2) を参照してください。

### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## 電話機の設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニューパスを使用して、電話機を設定します。

### 電話機の検索のヒント

Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway は、電話機の検索時に表示されません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから Cisco VG248 および VG224 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 および VG224 Gateway の設定情報については、「[ゲートウェイの設定 \(P.66-1\)](#)」を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話機の検索](#)」を参照してください。ユーザが現在ログイン中のデバイスを検索する方法については、「[現在ログイン中のデバイスの検索 \(P.67-44\)](#)」を参照してください。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで電話機を設定すると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで電話機の IP アドレスを確認できます。IPv4 アドレスだけ、または IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方が設定されている電話機の場合、ウィンドウには IPv4 アドレスが表示されます。IPv6 アドレスだけが設定されている電話機の場合、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [IP アドレス (IP Address)] 列には IP アドレスが 0.0.0.0 と表示されません。電話機の IPv6 アドレスを確認するには、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [デバイス名 (Device Name)] リンクをクリックします。これにより、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。[IPv6 のみ (IPv6 Only)] デバイスの場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは IPv6 アドレスの上方に [IP アドレス (IP Address)] の値として IPv4 アドレスが 0.0.0.0 と表示されます。

### 電話機の設定のヒント

新しい電話機を追加する場合、一括管理ツール がテンプレートに基づいて電話設定の一部を自動的に設定するために作成した電話テンプレートを選択できます。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.67-33\)](#)」を参照してください。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、電話機のデバイス タイプごとに、[デバイスは信頼済み (Device is trusted)] または [デバイスは信頼されていない (Device is not trusted)] が、対応するアイコンとともに表示されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは、デバイス タイプに基づいて判別されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは設定できません。表 67-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.67-47\)](#)」を参照してください。



(注)

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco Unified Communications Manager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域にある [?] 疑問符アイコンをクリックします。ポップアップウィンドウにヘルプが表示されます。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機のマニュアルを参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で更新する設定値の [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスをオンにします。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域で設定したパラメータは、各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウおよび [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示される場合があります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウにも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定の順に決定されます。

電話機の設定の詳細については、「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.67-33) を参照してください。

### 電話機のリセットのヒント

電話機をリセットする方法については、「[共通ボタンおよびアイコン](#)」(P.1-19) の [選択項目のリセット (Reset Selected)] ボタンおよび [リセット (Reset)] ボタンの説明を参照してください。

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco Unified IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco Unified Communications Manager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco Unified IP Phone をリセットできます。



(注)

コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

できる限り干渉の程度が低い方法を使用して、最新の設定変更で電話機を更新する方法については、「[電話機の同期化](#)」(P.67-37) も参照してください。

### 電話機の削除のヒント

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、「[電話機からの電話番号の削除](#)」(P.43-28) を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.46-3) を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で確認できます。または、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択して確認することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

### GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

## 設定値表

表 67-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

表 67-1 電話機の設定値

フィールド	説明
<b>[デバイス情報 (Device Information)]</b>	
[アクティブロード ID (Active Load ID)]	<p>Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合、このフィールドにはアクティブなファームウェア ロードの名前が表示されます。</p> <p>[アクティブロード ID (Active Load ID)] に [不明 (Unknown)] と表示される場合があります。たとえば、次のいずれかの状況が発生した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アクティブロード ID (Active Load ID)] フィールドに [不明 (Unknown)] と表示される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SCCP 電話機が Cisco Unified IP Phone 7940 (SCCP)、7960 (SCCP)、または 7985 (SCCP) である場合（これらの電話機モデルは、必要な SCCP のバージョンをサポートしていないためです）。</li> <li>• SCCP 電話機および SIP 電話機がサードパーティ製の電話機である場合。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager が電話機のステータスを判別できない場合。</li> </ul>
「デバイスはアクティブ (Device is Active)」	<p>電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費され、電話機を Cisco Unified CM に登録できる場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに「デバイスはアクティブ (Device Is Active)」というメッセージが表示されます。</p> <p>BAT によって作成されるダミー MAC アドレスではなく、実際の MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージが表示されます。これは、電話機がデバイス ライセンス ユニットを使用しており、Cisco Unified Communications Manager に登録できることを示します。</p> <p>BAT によって作成されるダミー MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージは表示されません。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダミー MAC アドレスを実際の MAC アドレスに手動で変換した場合、その設定を保存すると「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージが表示されます。これにより、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できるようになり、電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費されます。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>Cisco Unified IP Phone (ハードウェア電話機だけ) を識別する MAC アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p> <p><b>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</b></p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、「ゲートウェイの設定」(P.66-1) を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco Unified CM には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MAC アドレスの先頭 2 桁を削除します。</li> <li>• MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。</li> <li>• MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。</li> </ul> <p>例</p> <p>Cisco VG248 の MAC アドレスは 000039A44218 です。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に登録されたポート番号 12 用の MAC アドレスは 0039A4421812 です。</p> <p><b>Cisco VG224 Analog Phone Gateway</b></p> <p>Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できます。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。</p>
[デバイス名 (Device Name)]	<p>ソフトウェア ベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。</p> <p>MAC アドレスに基づかないデバイス名にする場合、原則として、英数字 (a ~ z、A ~ D、0 ~ 9) からなる 1 ~ 15 文字を入力できます。ほとんどの場合、ドット (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) も使用できます。</p> <p><b>ヒント</b> デバイス名のフィールドに関する規則はデバイス タイプによって異なるため、製品マニュアルを参照して、デバイスに有効な文字セットと、使用できる文字数を確認することを推奨します。たとえば、Cisco Unified Personal Communicator のデバイス名を設定する場合は、UPC で始まる名前にします。</p> <p><b>(注)</b> また、Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名は 15 文字以内にします。Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字を超えると、Cisco Unified Communications Manager の別のリリースへのアップグレード時に、このデバイスの移行が失敗します。既存の Cisco Unified Mobile Communicator デバイス名に 15 文字を超えるものがある場合は、15 文字以下にしてください。</p>



表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば「John Smith」) または電話機のロケーション (たとえば「Lobby」) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC&lt;MAC アドレス&gt; でこの記述が開始されます。</p> <p>説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&amp;)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (&lt;&gt;) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日時グループ、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する一連の特性を定義します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通デバイスを設定します。詳細については、「<a href="#">共通デバイス設定</a>」を参照してください。</p> <p>共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、スピードダイヤルなど) を指定します。</p> <p>Cisco Unified CM では、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してこのフィールドを利用できません。</p>
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートが共通デバイス設定に含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスで、使用可能な共通の電話プロファイルのリストから、共通の電話プロファイルを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切な Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します。コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリング サーチ スペースと電話番号のコーリング サーチ スペースは併用されます。電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">パーティションおよびコーリング サーチ スペース</a>」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「<a href="#">[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</a>」(P.43-25) を参照してください。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「<a href="#">[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</a>」(P.43-25) を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[&lt;なし (None)&gt;] を選択すると、Cisco Unified CM は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループ リストを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">メディア リソースの管理</a>」を参照してください。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified CM は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p><b>(注)</b> オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] &gt; [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified CM は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p><b>(注)</b> オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] &gt; [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、この Cisco Unified IP Phone に適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco Unified IP Phone が消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] &gt; [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「<a href="#">ロケーションの設定</a>」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御</a>」を参照してください。</p>



表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループが指定されない場合、Cisco Unified CM はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAR グループを使用します。
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified CM は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified CM はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager の Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>Cisco Unified CM は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco Unified CM はデバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。</p> <p>(注) ユーザが国別のトーンを (電話機で) 再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager の Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p>
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用する ([オン (On)], [オフ (Off)], または [デフォルト (Default)] を選択する) ことにより、割り込み機能のビルトイン会議ブリッジを使用可能または使用不可にします。</p> <p>(注) Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、2つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが [暗号化] に設定されたときは、7940 および 7960 電話機の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。</p> <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">割り込みとプライバシー</a>」を参照してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』も参照してください。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン (On)] を選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">割り込みとプライバシー</a>」を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード(Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに対してデバイス モビリティ機能のオン/オフを切り替えるか、デフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。デフォルト設定では、このデバイスの Device Mobility Mode サービス パラメータを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示(View Current Device Mobility Settings)] をクリックすると、次のデバイス モビリティ パラメータの現在の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]</li> <li>• [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)]</li> <li>• [ロケーション (Location)]</li> <li>• [リージョン (Region)]</li> <li>• [ネットワークロケール (Network Locale)]</li> <li>• [AAR グループ (AAR Group)]</li> <li>• [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]</li> <li>• [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)]</li> <li>• [メディアリソースグループプリスト (Media Resource Group List)]</li> <li>• [SRST]</li> </ul> <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイス モビリティ」を参照してください。</p>
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
[Video Capabilities][Enabled]/[disabled]	<p>ビデオ機能のオンとオフを切り替えます。</p> <p>(注) このフィールドは、一部の電話機モデルには適用されません。</p>
[オーナーのユーザ ID(Owner User ID)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、割り当てられている電話機のユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。</p> <p>(注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティは、デバイス オーナーをサポートしません。</p>
[モビリティユーザ ID(Mobility User ID)]  (デュアル モードの電話機のみ)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデュアル モード電話機が割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) モビリティ ユーザ ID の設定は、デュアル モード電話機のモバイル コネクトとモバイル ボイス アクセスで使用されます。</p> <p>(注) オーナーのユーザ ID とモバイル ユーザ ID は異なることがあります。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話機のパーソナライゼーション(Phone Personalization)]	<p>[電話機のパーソナライゼーション(Phone Personalization)]設定を使用すると、Unified Communications Widget の 1 つであり、壁紙や電話機の呼び出し音のカスタマイズを可能にする Phone Designer と、Cisco Unified IP Phone を連携できるようになります。[電話機のパーソナライゼーション(Phone Personalization)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[無効(Disabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできません。</li> <li>[有効(Enabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して電話機をカスタマイズできます。</li> <li>[デフォルト(Default)] : [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウおよび [共通の電話プロファイルの設定(Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウの両方で [デフォルト(Default)] を選択した場合、Phone Personalization エンタープライズ パラメータの設定が使用されます。[共通の電話プロファイルの設定(Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで [デフォルト(Default)] を選択したものの、[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウでは [デフォルト(Default)] を選択しなかった場合、[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで指定した設定が使用されます。</li> </ul> <p>電話機ユーザが電話機をカスタマイズできるようにするには、Phone Designer をインストールして設定する必要があります。Phone Designer をインストールして設定する前に、Phone Designer と連携する Cisco Unified IP Phone モデルを識別します (Phone Designer のマニュアルを参照)。Phone Designer の詳細については、次の URL にある Phone Designer のマニュアルを参照してください。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cupa/phone_designer/7.1/english/install/guide/Installation_Guide.html">http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cupa/phone_designer/7.1/english/install/guide/Installation_Guide.html</a></p>
[サービスのプロビジョニング(Services Provisioning)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機でのサービスのサポート方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[内部(Internal)] : 電話機の設定ファイルを使用して、サービスをサポートします。</li> </ul> <p>サービス URL がまだ更新されていないシスコ提供のデフォルト サービスには、このオプションまたは [両方(Both)] を選択します。サービス URL は Application:Cisco/&lt;サービスの名前&gt; という形式で表され、たとえば、Application:Cisco/CorporateDirectory のようになります。</p> <p>シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、設定ファイルでプロビジョニングされるため、[内部(Internal)] または [両方(Both)] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[外部 URL(External URL)] : [外部 URL(External URL)] を選択すると、電話機は電話機の設定ファイルのサービスを無視し、サービス URL からサービスを取得します。</li> </ul> <p>シスコ提供のデフォルト サービスを含め、サービスのサービス URL に独自の値を設定した場合は、[外部 URL(External URL)] または [両方(Both)] を選択する必要があります。[内部(Internal)] を選択すると、その設定した URL に関連付けられているサービスが電話機で機能しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[両方(Both)] : [両方(Both)] を選択すると、電話機は設定ファイルに定義されているサービスと、サービス URL から取得される外部アプリケーションの両方をサポートします。</li> </ul>
[プライマリ Phone(Primary Phone)]	<p>IP Communicator または Cisco Unified Personal Communicator などのアプリケーションに関連付ける物理的な電話機を選択します。プライマリ Phone を選択した場合、アプリケーションが使用するデバイス ライセンス ユニットは少なくなり、(プライマリ Phone に対する)「付加」ライセンスと見なされます。『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ライセンス」を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified CM がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、その H.245 ターミナル機能セットを送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified CM が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>Cisco Unified IP Phone のカスタム ソフトウェアを入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、「デバイス デフォルトの設定」(P.69-1) を参照してください。</p> <p>Cisco Unified IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルおよび Unified CM リリースに固有の『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p>
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに対してワンボタン割り込み/C 割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータ設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、標準の割り込み機能または C 割り込み機能は引き続き動作します。</li> <li>[割り込み (Barge)] : この設定は、ワンボタン割り込み機能を有効にします。</li> <li>[C 割込 (CBarge)] : この設定は、ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。</li> <li>[デフォルト (Default)] : サービス パラメータにあるワンボタン割り込み/C 割り込みの設定を使用します。</li> </ul> <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに対して回線をまたいで参加機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータ設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オフ (Off)] : この設定は、回線をまたいで参加機能を無効にします。</li> <li>[オン (On)] : この設定は、回線をまたいで参加機能を有効にします。</li> <li>[デフォルト (Default)] : この設定は、サービス パラメータにある、[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] の設定を使用します。</li> </ul>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified CM が Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) のデバイスをこのメディア エンドポイントで挿入するかどうかについて、有効化または無効化を指定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> </ul> <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVPAgent)、Cisco Unified CM は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>TRP と RSVPAgent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified CM はまず、TRP としても使用可能な RSVPAgent を検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified CM はまず、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>この設定は、Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) DN に現在コールが存在しない場合に、BLF オーディオアラート設定を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On)] : オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off)] : オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default)] : [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの設定によって、アラート オプションが決定します。</li> </ul>
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)]	<p>この設定は、BLF DN に少なくとも 1 つのアクティブなコールが存在しても、コール ピックアップアラートが存在しない場合に、BLF オーディオアラート設定を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [オン (On)] : オーディオアラートを鳴らします。</li> <li>• [オフ (Off)] : オーディオアラートを鳴らしません。</li> <li>• [デフォルト (Default)] : [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの設定によって、アラート オプションが決定します。</li> </ul>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話機のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。</li> <li>[オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフ フック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話機のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。</li> <li>[デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。</li> </ul>
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合に電話機のメッセージ ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。</li> <li>[オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified CM は、ボイス メッセージが設定されている最初の回線を常に選択します。ボイス メッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話機のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。</li> <li>[デフォルト (Default)] : Cisco Unified CM は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。</li> </ul>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>ヒント</b> コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] 設定ウィンドウ ([デバイス (Device)] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings)] &gt; [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]) にすでに設定されている機能管理ポリシーを選択できます。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで選択した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>



表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオエンドポイントだけに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとします。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハントリスト経由でコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified CM は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、トランスレーション パターンレベルで発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示の設定を組み合わせ使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示のパラメータの詳細については、「トランスレーション パターンの設定値」 (P.42-1) の表 42-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号がシェアドラインを指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンにする必要があります。</p>
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、デフォルトですべての電話機に対してオンになり、電話機が現在ハントリスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハントリストに追加されたときに、管理者はこのチェックボックスをオン (オフ) にすることにより、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、その電話機をハント リストにログインさせ、またはハントリストからログアウトさせます。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>リモート サイトへの SCCP パイプで接続時間が遅延している場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、登録時に電話デバイスにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込むことを Cisco Unified CM に指示できます。</p> <p><b>ヒント</b> この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機にシグナリングの遅延が生じている場合にだけ、このチェックボックスをオンにしてください。このオプションは、ほとんどのユーザには必要ありません。</p> <p>Cisco Unified CM は、ステーション バッファがいっぱいになったとき、メディア関連メッセージの受信直後、または Bundle Outbound SCCP Messages Timer が時間切れになったときに、組み込まれたメッセージを送信します。</p> <p>Bundle Outbound SCCP Messages Timer に対してデフォルト設定 (100 ミリ秒) 以外の設定を指定するには、Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで新しい値を設定します。100 ミリ秒が推奨設定ですが、15 ~ 500 ミリ秒を入力することができます。</p> <p>このオプションを使用するには、電話機が SCCP バージョン 9 をサポートしている必要があります。Cisco Unified IP Phone 7935/7936 は、SCCP メッセージ最適化をサポートしていません。この機能を使用するには、更新後に電話機のリセットが必要になる場合があります。<a href="#">「電話機の同期化」 (P.67-37)</a> を参照してください。</p>
[保護されたデバイス (Protected Device)]	<p>電話機を保護として指定するには、このチェックボックスをオンにします。この指定では、コールが暗号化されている場合、および保護されたデバイスとして両方の電話機が設定されている場合、ユーザに通知するための 2 秒間のトーンを再生できます。このトーンは、コールが応答されたときに両方の電話機で再生されます。このトーンが再生されるのは、両方の電話機が保護になっていて、かつ暗号化メディアを介してコールが発信された場合だけです。</p> <p>このチェックボックスをオンにすることは、セキュア インディケーション トーンを再生するための複数の設定要件のうち 1 つにすぎません。セキュア インディケーション トーン機能および設定要件の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>このチェックボックスをオンにし、コールが暗号化されていないと判断された場合、電話機では非セキュア インディケーション トーンが再生され、コールが保護されていないことがユーザに警告されます。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットライン デバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイ스에適用する必要があります。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]</b>	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。</li> <li>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified CM が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified CM は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified CM は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>このチェックボックスの説明に従い、このフラグをオンにする場合は、ネットワークに IPSec を設定して、エンドツーエンドのセキュリティを確保する必要があります。この設定を行わないと、鍵やその他の情報が暴露されます。</p> <p>SRTP 暗号化の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンドユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』の「<b>プレゼンス</b>」の章を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスセキュリティプロファイル(Device Security Profile)]	<p>デバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティプロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。『<i>Installing Cisco Unified Communications Manager</i>』をインストールすると、あらかじめ定義された非セキュアなセキュリティプロファイルのセットが自動登録用に提供されます。電話機のセキュリティ機能を使用可能にするには、デバイスタイプとプロトコルに対応した新しいセキュリティプロファイルを設定して電話機に適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアプロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム(System)] &gt; [セキュリティプロファイル(Security Profile)] &gt; [電話セキュリティプロファイル(Phone Security Profile)] の順に選択します。</p> <p><b>(注)</b> プロファイルに含まれている Certificate Authority Proxy Function (CAPF) 設定値は、[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウに表示される CAPF 設定値に関連しています。Manufacturer-Installed Certificate (MIC; 製造元でインストールされる証明書) または Locally Significant Certificate (LSC; ローカルで有効な証明書) が関与する証明書操作の CAPF 設定値を設定する必要があります。[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで更新した CAPF 設定値がセキュリティプロファイルの CAPF 設定値に与える影響の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド</i>』を参照してください。</p>
[SIP ダイアルルール(SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアルルールを選択します。SIP ダイアルルールにより、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7960 ではローカルのダイヤルプランを使用できます。そのため、ユーザは、コール処理の前にキーを押す必要も、タイマーを待つ必要もありません。</p> <p>SIP を実行している IP Phone にダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイアルルール(SIP Dial Rules)] フィールドの設定を [&lt;なし(None)&gt;] のままにします。この設定は、コール処理の前にユーザが [ダイヤル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[MTP 優先発信コーデック(MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、SIP コールにメディアターミネーションポイントが必要となる場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース(Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>参照先へのルートを検索するときは、Referrer の再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で Refer が失敗した場合、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを使用して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能でも、リダイレクト先または転送先を検索するときに、再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。</p>
[Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペース(Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified CM は、Out-Of-Dialog (OOD) REFER 許可コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP Out-Of-Dialog REFER を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、Out-Of-Dialog REFER の使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD REFER 要求を拒否し、「403 Forbidden」というメッセージを返します。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング検索スペースは、電話機からのプレゼンス要求を Cisco Unified CM がルーティングする方法を決定します。この設定を使用すると、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理検索スペースとは別のコーリング検索スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、電話機のプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング検索スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング検索スペースが、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストからエンドユーザ用の別のコーリング検索スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング検索スペースは、デフォルトで [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング検索スペースを設定するには、すべてのコーリング検索スペースと同じようにコーリング検索スペースを設定します。コーリング検索スペースの設定方法については、「<a href="#">コーリング検索スペースの設定</a>」(P.41-1) を参照してください。</p>
[アウトバウンドコールロールオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>Cisco Unified IP Phone 7931 ではこの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ロールオーバーなし (No Rollover)] : このモードでは会議および転送は機能しません。ユーザがいずれかの機能を使おうとした場合、電話機のステータスには [エラー: 制限を超えました] と表示されます。この設定は、CTI アプリケーションをサポートする必要がある場合にだけ選択してください。</li> <li>• [同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)] : 会議およびコールの転送は、(異なる回線上で) 同じ電話番号を使用して実行されます。たとえば、回線 6 および 7 に電話番号 1506 が割り当てられた電話機があるとします。回線 6 にアクティブなコールがあり、ユーザはコールを転送することにしました。ユーザが転送ボタンを押したときに、回線 6 のコールは保留になり、転送を実行するために回線 7 で新しいコールが開始されます。</li> <li>• [任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)] : 会議およびコールの転送は、元のコールとは異なる電話番号および回線を使用して実行されます。たとえば、電話番号 1507 が回線 8 に割り当てられ、電話番号 1508 が回線 9 に割り当てられた電話機があるとします。回線 8 にアクティブなコールがあり、ユーザはコールを転送することにしました。ユーザが転送ボタンを押したときに、回線 8 のコールは保留になり、転送を実行するために回線 9 で新しいコールが開始されます。</li> </ul>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルト SIP プロファイルまたは以前作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルには、登録タイマーとキープアライブタイマー、メディアポート、および Do Not Disturb (DND; サイレント) コントロールなど、電話機に関する特定の SIP 情報が含まれています。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用される設定のために、電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したユーザのダイジェスト信用証明書を設定したことを確認します ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを参照)。</p> <p>電話機の設定を保存し、更新した設定を電話機に適用すると (<a href="#">「電話機の同期化」</a> (P.67-37) を参照)、ユーザのダイジェスト信用証明書が電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドでは、H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能を実装するために MTP を使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能を実装するときに MTP を使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスだけに使用してください。または、メディアストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	<p>SIP および SCCP を実行している電話機の場合、この電話機に DTMF 受信が必要なときは、このチェックボックスをオンにします。</p> <p><b>(注)</b> SIP トランク (クラスタ間トランクの ICT またはゲートウェイのいずれか) を介して IP 電話機のリモート接続先としてクラスタ間 DN を使用して Cisco Unified Mobility 機能を設定する場合、このチェックボックスをオンにして DTMF 番号がアウトオブバンドで受信されることができるようにします。これは、エンタープライズ機能アクセスのミッドコール機能にとって非常に重要です。</p>
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP を実行している電話機の場合、RFC2833 サポートを使用不可にするときは、このチェックボックスをオンにします。
<b>[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)]</b>	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[保留中の操作なし (No Pending Operation)] : 認証操作が行われない時間を表示します (デフォルト設定)。</li> <li>[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。</li> <li>[削除 (Delete)] : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。</li> <li>[トラブルシューティング (Troubleshoot)] : ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。電話機に両方の種類の証明書が存在する場合、Cisco Unified CM は証明書の種類ごとに 1 つずつ、2 つのトレース ファイルを作成します。</li> </ul> <p>[トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。</p> <p>CAPF 処理の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>



表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 認証モード (Authentication Mode)]	<p>このフィールドでは、CAPF 証明書の処理中に電話機が使用する認証方法を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 認証ストリング (By Authentication String) ] : ユーザが電話機で CAPF 認証文字列を入力した場合に限り、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。</li> <li>• [ Null ストリング (By Null String) ] : ユーザの操作なしで、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。 このオプションは、セキュリティを提供しません。このオプションは、閉じた安全な環境だけで選択することを強くお勧めします。</li> <li>• [ 既存の証明書 (LSC の優先) (By Existing Certificate (precedence to LSC)) ] : 製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。LSC が電話機内に存在する場合は、MIC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。MIC および LSC が電話機内に存在する場合、認証は LSC を通じて実行されます。LSC が電話機内に存在せず、MIC が存在する場合、認証は MIC を通じて実行されます。 このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。 MIC と LSC が電話機内に同時に存在する場合でも、電話機は常に 1 つの証明書だけを使用して CAPF に対して認証します。何らかの原因により優先されるプライマリ証明書の信頼性が低下した場合、または他の証明書を通じて認証する場合は、認証モードを更新する必要があります。</li> <li>• [ 既存の証明書 (MIC の優先) (By Existing Certificate (precedence to MIC)) ] : MIC または LSC が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。MIC が電話機内に存在する場合は、LSC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。LSC が電話機内に存在し、MIC が存在しない場合、認証は LSC を通じて実行されます。 このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。</li> </ul> <p>(注) [ 電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration) ] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[ 電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。</p>
[ 認証文字列 (Authentication String)]	<p>[ 認証モード (Authentication Mode) ] ドロップダウン リスト ボックスで [ 認証ストリング (By Authentication String) ] オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または [ 文字列を生成 (Generate String) ] ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[キーサイズ (Key Size、ビット)]	CAPF で使用されるこの設定では、ドロップダウンリスト ボックスから認証のキー サイズを選択します。デフォルト設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。  デフォルトの設定よりも大きいキー サイズを選択した場合、キーの生成に必要なエントロピーを生成するために長い時間がかかります。キー生成の優先順位を低く設定すると、処理中に電話機を動作させることができます。電話機のモデルによっては、キー生成が完了するまでに 30 分以上かかることがあります。  (注) [電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	このフィールドは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、および [トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。  表示される値はパブリッシュ データベース サーバ用です。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、「<操作タイプ> pending」、 「failed」、または「successful」です。ここで、操作タイプは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、または [トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションを表します。このフィールドに表示される情報は変更できません。
<b>[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]</b>	
(次のフィールドは、電話機で拡張モジュールがサポートされているときにだけ表示されます。)	
[モジュール 1 (Module 1)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[モジュール 2 (Module 2)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[モジュール 3 (Module 3)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 3 ロード名 (Module 3 Load Name)]	適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
<b>[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]</b>	
[情報 (Information)]	[i] (情報) ボタンのヘルプ テキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[ディレクトリ (Directory)]	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
[メッセージ (Messages)]	このフィールドはブランクのままにします (Cisco Unified Communications Manager では使用されません)。
[サービス (Services)]	IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone 上の拡張機能は動作しません。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホスト アドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>プロキシ サーバ パラメータを使用する場合を示す規則としては、次の 2 つがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホスト名に「.」が含まれている。</li> <li>2. ホスト名が何らかの形式の IP アドレスである。</li> </ol> <p>この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間の間、Cisco Unified IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、[アイドル (Idle)] フィールドで指定された URL が表示されます。</p> <p>Idle URL Timer エンタープライズ パラメータの値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p><b>(注)</b> [セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティで保護された Cisco Unified IP Phone が使用する URL を指定します。</p> <p><b>(注)</b> [セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュア情報 URL(Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプ テキスト情報を検索できるサーバの場所を示すセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [セキュア情報 URL(Secure Information URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュアサービス URL(Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。これは、ユーザがサービス ボタンを押すと、セキュリティで保護された Cisco Unified IP Phone が接続される場所です。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure Services URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長：255</p>
<b>[内線情報 (Extension Information)]</b>	
[エクステンションモビリティの有効化(Enable Extension Mobility)]	<p>この電話機でエクステンション モビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスは、Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがいない場合に、デバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Settings)] またはリストされる特定の設定プロファイルのいずれかを選択できます。</p> <p>特定の設定プロファイルを選択した場合、デバイスとログイン プロファイルとの間のマッピングは、ユーザのログアウト後も保持されます。[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Settings)] を選択した場合、マッピングは保持されません。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログイン時刻 (Log in Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
[ログアウト時刻 (Log out Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
<b>[設定ファイル暗号化対称キー情報 (Configuration File Encryption Symmetric Key Information)]</b>	
[対称キー (Symmetric Key)]	<p>対称キーに使用する 16 進文字の文字列を入力します。有効な文字には、数字の 0 ~ 9、および大文字/小文字の A ~ F (または a ~ f) があります。</p> <p>鍵サイズに対応した正しいビットを入力してください。そうでない場合、Cisco Unified CM は入力された値を拒否します。Cisco Unified CM は、次の鍵サイズをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified IP Phone 7905 および 7912 (SIP のみ) : 256 ビット</li> <li>• Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 (SIP のみ) : 128 ビット</li> </ul> <p>この文字列が使用されるのは 1 回だけです。設定値を更新するたびに、新しい鍵を生成してから電話機をリセットする必要があります (<a href="#">「電話機の同期化」 (P.67-37)</a> を参照)。</p> <p>暗号化された設定ファイルのダウンロードに関する対称キーの操作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[文字列を生成 (Generate String)]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで 16 進文字を生成させる場合は、[文字列を生成 (Generate String)] ボタンをクリックします。
[データベース値を復元 (Revert to Database Value)]	データベースに存在する値を復元する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、[対称キー (Symmetric Key)] フィールドに不適切な値を入力してから設定を保存した場合に役立ちます。
<b>[H.323 情報 (H.323 Information)]</b>	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	H.323 クライアントへの発信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>H.323 クライアントへの発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified CM が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco Unified CM が発信者 ID を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。</p> <p>Cisco Unified CM が発信者 ID を送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>[デフォルト (Default)] では、発信者 ID を送信しないことが指定されます。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリーを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>
[番号 IE 配信アウトバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified CM からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
[番号 IE 配信インバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Inbound)]	<p>Cisco Unified CM に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受取するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Cisco Unified CM に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>
<b>[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]</b>	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco Unified CM で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。
[E.164]	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。[ゾーン (Zone)] 経由の設定を使用できる場合、このフィールドは影響力を持ちません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
[ゾーン (Zone)]	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
<b>[関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)]</b>	
(モビリティ ID)	<p>このデバイスにモビリティ ID がすでに設定されている場合、この領域にはモビリティ ID の名前および接続先番号が表示されます。どちらかの値をクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウにモビリティ ID 情報を表示できます。</p> <p>(注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。</p>
[新規モビリティ ID の追加 (Add New Mobility Identity)]	<p>このデバイスにまだモビリティ ID が設定されていない場合、このリンクをクリックしてモビリティ ID を追加します。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイスに関連付ける新しいモビリティ ID を追加することができます。</p> <p>(注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。</p>



表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)]</b>	
(リモート接続先)	<p>このデバイスにリモート接続先がすでに設定されている場合、この領域にはリモート接続先の名前および接続先番号が表示されます。値をクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウに [リモート接続先情報 (Remote Destination Information)] を表示することができます。</p> <p><b>(注)</b> このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。</p>
[新規リモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)]	<p>このリンクをクリックして、このデバイスに関連付けるリモート接続先を追加します。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイスに関連付ける新しいリモート接続先を追加することができます。</p> <p><b>(注)</b> このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。</p>
<b>[MLPP 情報 (MLPP Information)]</b>	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインのドロップダウン リストボックスから MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リストボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。</li> <li>[オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>[オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p><b>(注)</b> [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p><b>(注)</b> エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。</li> <li>[無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。</li> <li>[強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
<b>[サイレント (Do Not Disturb)] (DND)</b>	
[サイレント (Do Not Disturb)]	電話機で Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、このパラメータでは、DND 機能が着信コールをどのように処理するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[コール拒否 (Call Reject)] : このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定したかに応じて、電話機はピープ音を再生したり、コールのフラッシュ通知を表示したりします。</li> <li>[呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。</li> <li>[共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] の設定値をデバイスに使用するように指定します。</li> </ul> <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話機の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけです。モバイル デバイスとデュアル モード電話機の場合、選択できるのは [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけです。モバイル デバイスまたはデュアル モード電話機に対して DND の [コール拒否 (Call Reject)] を有効にすると、コール情報はデバイスに表示されなくなります。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定値をデバイスに使用するよう指定します。</li> <li>[無効 (Disabled)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。</li> <li>[ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のビープ音だけが再生されます。</li> <li>[フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のフラッシュアラートだけが表示されます。</li> </ul>
<b>[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]</b>	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。最大 50 文字の英数字または特殊文字を入力できます。無効な文字には "、%、&amp;、&lt;、&gt;、¥ などがあります。このフィールドは、設定している電話機が SSH アクセスをサポートしている場合に表示されます。</p> <p>Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p> <p>Cisco Unified CM が電話機に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。最大 200 文字の英数字または特殊文字を入力できます。無効な文字には "、%、&amp;、&lt;、&gt;、¥ などがあります。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p> <p>Cisco Unified CM が電話機に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
<b>[割り当て情報 (Association Information)]</b>	
[ボタン項目を変更 (Modify Button Items)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に対するボタンの関連付けを管理するには、このボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示され、電話機に対する未保存の変更はすべて失われる可能性があることが警告されます。電話機に対する変更をすべて保存した場合は、[OK] をクリックして続行します。この電話機用の [電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」(P.67-43) を参照してください。</p>

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)]	電話機を追加すると、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [ 割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。
[ 回線 [2] - 新規 DN を追加 (Line [2] - Add a new DN)]	この電話機に関連付ける電話番号 (複数可) を追加するには、これらのリンクをクリックします。いずれかのリンクをクリックすると、[ 電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。 詳細については、「 <a href="#">電話番号の設定値 (P.43-1)</a> 」を参照してください。
[ 新規 SD を追加 (Add a new SD)]	電話機を追加すると、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [ 割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。 この電話機のスピードダイヤル設定を追加するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。 詳細な手順については、「 <a href="#">スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定 (P.67-38)</a> 」を参照してください。
[ 新規 SURL を追加 (Add a new SURL)]	電話機を追加すると、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [ 割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。 この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for)] ウィンドウが表示されます。 詳細な手順については、「 <a href="#">サービス URL ボタンの設定 (P.67-41)</a> 」を参照してください。
[ 新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)]	電話機を追加すると、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [ 割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。 この電話機のビジー ランプ フィールド/スピードダイヤル設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの設定 (Busy Lamp Field Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。 詳細については、「 <a href="#">BLF/スピードダイヤルの設定値 (P.67-32)</a> 」を参照してください。
[ 新規 BLF ダイレクトコールパークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)]	電話機を追加すると、[ 電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [ 割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。 この電話機のビジー ランプ フィールド/ダイレクトコールパーク設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの設定 (Busy Lamp Field Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。 BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i> 』の「 <a href="#">コールパークとダイレクトコールパーク</a> 」の章を参照してください。

表 67-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]</b>	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するデバイスの資料を参照するか、製造元にお問い合わせください。</p> <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で更新する設定値の [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスをオンにします。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域で設定したパラメータは、各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウおよび [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示される場合があります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウにも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定の順に決定されます。</p>

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## 電話の移行の設定

既存の電話の設定の移行については、「[既存の電話機の設定の別の電話機への移行](#)」(P.67-35) を参照してください。

## スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定値

表 67-2 では、スピードダイヤル ボタンの設定値について説明します。[スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機のスピードダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 67-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個のスピードダイヤルおよび短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

**スピードダイヤルの設定**

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

**短縮ダイヤルの設定**

短縮ダイヤルでアクセスするためのスピードダイヤル番号の設定を行います。最大 99 個のスピードダイヤル エントリを設定した場合、一部のスピードダイヤル エントリを IP 電話機のスピードダイヤル ボタンに割り当てることができます。残りのスピードダイヤル エントリは、短縮ダイヤルに使用されます。ユーザが番号をダイヤルすると、電話機に [短縮] ソフトキーが表示されます。短縮ダイヤルに該当するインデックス (コード) を入力すると、スピードダイヤル エントリにアクセスできます。



(注)

一部の Cisco Unified IP Phone は短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザガイドを参照してください。

表 67-2 スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
(左のカラムにある 1 ~ 99 の番号)	このカラムには、電話機または Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール上のスピードダイヤル ボタン (たとえば、1、2、3、4 など) を指定するか、あるいは、短縮ダイヤルに使用する短縮ダイヤル インデックスを指定します。
[番号 (Number)]	ユーザがスピードダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。0 ~ 9 の数字、*、#、および + (国際的なエスケープ文字) を入力することができます。
[ラベル (Label)]	スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤル番号に対して表示されるテキストを入力します。  Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified IP Phone 7910 に対してこのフィールドを使用不可にします。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII ラベル (ASCII Label)]	このフィールドには、[ラベル (Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの内容が表示されます。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## BLF/スピードダイヤルの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスを設定すると、ウォッチャーと呼ばれる関係者が、ウォッチャーのデバイスの BLF/スピードダイヤル ボタンを使用して、電話番号または SIP URI のリアルタイム ステータスを監視できるようになります。

SIP を実行しているプレゼンス対応の電話機では、電話番号または SIP URI を BLF/スピードダイヤル ボタンとして設定できます。SCCP を実行しているプレゼンス対応の電話機では、電話番号だけを BLF/スピードダイヤル ボタンとして設定できます。

BLF/スピードダイヤル ボタンの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[プレゼンス](#)」の章を参照してください。



## BLF/ダイレクト コール パークの設定値

ダイレクト コール パークを使用すると、ユーザが選択した利用可能なダイレクト コール パーク番号に、パークされているコールを転送できます。ダイレクト コール パーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定(Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定したダイレクト コール パーク番号は、クラスタ全体で使用可能です。ダイレクト コール パークの Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) をサポートする電話機は、指定したダイレクト コール パーク番号が、ビジー ステータスかアイドル ステータスかを監視するように設定できます。また、ユーザは BLF を使用してダイレクト コール パーク番号をスピード ダイヤルで発信することもできます。

BLF/ダイレクト コール パーク ボタンの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール パークとダイレクト コール パーク」の章を参照してください。

## Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加するには、自動登録を使用して自動的に行うか、または [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウを使用して手作業で行います。自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに電話を接続するときに、その Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用しない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てている場合です。



(注)

自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。

クラスタ全体のセキュリティ モードを混合モードに設定すると、Cisco Unified Communications Manager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手作業で Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加する必要があります。

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスが [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。

Cisco Unified IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。また、この手順に従って、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco Unified Communications Manager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant が使用する仮想デバイスを示します。

新しい電話機を追加する場合、一括管理ツール がテンプレートに基づいて電話設定の一部を自動的に設定するために作成した電話テンプレートを選択できます。

電話テンプレートを選択するには、サーバに電話テンプレートが存在する必要があります。一括管理ツールの電話テンプレートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。



**(注)** Cisco VG248 および VG224 電話ポートは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから追加します。設定については、「ゲートウェイの設定」(P.66-1) を参照してください。

**ヒント**

特定の電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、その電話機が使用する IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスが表示されます (該当する場合)。IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスの両方が設定されているデュアルスタック モードの電話機では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、電話機の Web サーバの IPv4 URL をポイントする IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをクリックできます。IPv6 アドレスだけを使用する電話では、電話機の Web サーバが IPv4 だけをサポートするので、IPv6 アドレスをクリックできません。

**ワンポイントアドバイス**

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定については、「電話ボタンテンプレートの設定値」(P.73-1) および「非標準ソフトキーテンプレートの作成」(P.74-2) を参照してください。

**手順**

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。



**(注)** MAC アドレスの入手については、「電話機の MAC アドレスの表示」(P.67-46) を参照してください。

- 既存の電話機をコピーするには、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで該当する電話機を見つけます。次に、コピーする電話機の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、**ステップ 5**に進みます。
- 既存の電話機をコピーし、電話機に関連付けられた電話番号、スピードダイヤル、ビジー ランプ フィールド/スピードダイヤル、およびサービス URL をコピーするには、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで該当する電話機を見つけます。次に、コピーする電話機の横にある [スーパーコピー (Super Copy)] ボタンをクリックし、**ステップ 5**に進みます。



**(注)** コピーされた回線は、元の電話機と新しい電話機のためのシェアラインになります。

- 新しい電話機を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、**ステップ 3**に進みます。
- 既存の電話機を更新するには、該当する電話機を見つけます。次に、**ステップ 5**に進みます。

**ステップ 3** 電話機モデルを選択するときに、次のいずれかの作業を行います。

- [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。電話機タイプの選択後はそのタイプを変更できません。

- [電話テンプレート (Phone Template)] オプション ボタンを選択し、ドロップダウン リスト ボックスから適切な電話テンプレートを選択し、[次へ (Next)] をクリックします (一括管理ツールで作成した電話テンプレートだけがドロップダウン リスト ボックスに表示されます)。

**ステップ 4** [デバイスプロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイスの適切なプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 5](#) に進んでください。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 適切な設定値を入力します (表 67-1 を参照)。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

**ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

電話機を追加する場合は、電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。この電話機に電話番号を追加するには、ウィンドウの左側に表示される [割り当て情報 (Association Information)] ペインで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] など、回線リンクのいずれかをクリックします。「[電話番号の設定値](#)」(P.43-1) に進みます。

電話機を更新する場合は、変更内容を有効にするには [設定の適用 (Apply Config)] ボタンをクリックする必要がありますことを示すメッセージが表示されます。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「[電話機の同期化](#)」(P.67-37) を参照してください。

### 次の作業

この電話機にスピードダイヤル ボタンを設定するには、「[スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定](#)」(P.67-38) を参照してください。この電話機にサービスを設定するには、「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.67-39) を参照してください。この電話機にサービス URL ボタンを設定するには、「[IP Phone サービスの電話ボタンへの追加](#)」(P.75-11) を参照してください。この電話機のビジー ランプ フィールド/スピードダイヤルの設定値を設定するには、「[BLF/スピードダイヤルの設定値](#)」(P.67-32) を参照してください。

### 追加情報

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスとともに、電話機を Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定する方法については、「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## 既存の電話機の設定の別の電話機への移行

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウでは、機能、ユーザ、および回線の設定を別の電話機に移行できます。データは、別の電話機モデルまたは別のプロトコルを実行する同じ電話機モデルに移行できます。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7965 のデータを Cisco Unified IP Phone 7975 に移行できます。または、たとえば Cisco Unified IP Phone 7965 (SCCP) など SCCP を実行する電話機モデルのデータを、たとえば Cisco Unified IP Phone 7965 (SIP) など SIP を実行する同じ電話機モデルに移行できます。



### ヒント

電話機の移行を行うと、既存の電話機の設定を新しい電話機に移植できます。電話、回線、スピードダイヤルなどを追加する必要はありません。

既存の電話機の設定を移行する前に、次のトピックを参照してください。

- 「[始める前に](#)」(P.67-36) : 設定を移行する前に確認する情報

- 「手順」(P.67-36) : 設定を移行するために実行する手順
- 表 67-3 : [電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウに表示される設定値

### 始める前に

電話機の設定を新しい電話機に移行する前に、次の点を考慮してください。

- 電話機モデルが同じ機能をサポートしていない場合、移行後に新しい電話機で機能が使用できないことに注意してください。[電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウで移行設定を保存する前に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに、機能を使用できなくなることを警告するメッセージが表示されます。
- 一部の電話機モデルは、CTI ポート、H.323 クライアント、Cisco Unified Mobile Communicator、Cisco IP SoftPhone などの電話機の移行をサポートしていません。
- 電話機の設定を移行する前に、BAT で移行先の電話機モデルおよびプロトコルの電話テンプレートを作成する必要があります。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7965 の設定を Cisco Unified IP Phone 7975 に移行する場合、Cisco Unified IP Phone 7975 の電話テンプレートを作成します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで元の電話機のフィールドが表示されず、新しい電話機にこのフィールドが必要な場合、新しい電話機に必要なフィールドの電話テンプレートから値を使用します。

- 新しい電話機は、元の電話機と同じ既存のデータベース レコードを使用するので、電話機の設定を新しい電話機に移行すると、Cisco Unified Communications Manager の管理/Cisco Unified Communications Manager データベースから元の電話機の設定が削除されます。つまり、移行後には元の電話機の設定を表示したり、アクセスしたりできなくなります。

使用するスピードダイヤルまたは回線の少ない電話機に移行しても、Cisco Unified Communications Manager の管理/Cisco Unified Communications Manager データベースから元の電話機のスピードダイヤルまたは回線は削除されません。ただし、新しい電話機では一部のスピードダイヤルまたは回線は表示されません。設定を移行すると、新しい電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、元の電話のスピードダイヤルおよび回線がすべて表示されます。

- 新しい電話機に電話機の設定を移行する前に、電話機がネットワークから外されていることを確認してください。移行作業を実行すると、新しい電話機をネットワークに接続し、デバイスを登録できます。
- 電話機の設定を新しい電話機に移行する前に、新しい電話機に対して十分な数のデバイス ライセンス ユニットがあることを確認します。



### ヒント

複数の電話機の設定を移行する場合は、一括管理ツールを使用します。この作業の実行方法については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** BAT で、データを移行する電話機モデルおよびプロトコルの電話テンプレートを作成したことを確認します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。
- ステップ 2** [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) で、移行する電話機の設定を検索します。
- ステップ 3** 移行する電話機の設定の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [電話の移行 (Migrate Phone)] を選択します。
- ステップ 4** 適切な移行の設定値を入力します (表 67-3 を参照)。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 新しい電話機で機能が失われることの警告が表示された場合は、[OK] をクリックします。

表 67-3 電話機の移行の設定値

フィールド	説明
[電話テンプレート (Phone Template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話機の設定の移行先となる電話機モデルの電話テンプレートを選択します。  [一括管理 (Bulk Administration)] の [電話テンプレート (Phone Template)] ウィンドウで設定した電話テンプレートだけが表示されず ([一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)])。
[MAC アドレス (MAC Address)]	このフィールドは、ハードウェア電話機だけをサポートします。設定の移行先となる新しい Cisco Unified IP Phone のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。  ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
[説明 (Description)]	必要に応じて、新しい電話機の説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## 電話機の同期化

電話機を最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

**手順**

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致する電話機がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させる電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。  
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



**ステップ 6** [OK] をクリックします。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定

ユーザにスピードダイヤル ボタンを提供する場合、またはスピードダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機にスピードダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、[Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] を使用して、電話機のスピードダイヤル ボタンを変更できます。

表 67-2 では、スピードダイヤル ボタンと短縮ダイヤルの設定値について説明します。[スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機のスピードダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 67-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個のスピードダイヤルおよび短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

#### スピードダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

#### 短縮ダイヤルの設定

短縮ダイヤルでアクセスするためのスピードダイヤル番号の設定を行います。最大 99 個のスピードダイヤル エントリを設定した場合、一部のスピードダイヤル エントリを IP 電話機のスピードダイヤル ボタンに割り当てることができます。残りのスピードダイヤル エントリは、短縮ダイヤルに使用されます。ユーザが番号をダイヤルすると、電話機に [短縮] ソフトキーが表示されます。短縮ダイヤルに該当するインデックス (コード) を入力すると、スピードダイヤル エントリにアクセスできます。



(注)

一部の Cisco Unified IP Phone は短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [スピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

この電話機用の [スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注)

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択してください。検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。スピードダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 67-2 を参照)。



- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を適用します。
- ステップ 4** [閉じる (Close)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## IP Phone サービスの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 など特定の電話機から天気や株価などのサービスにアクセスできます。管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。サービスの中には、ユーザが [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] メニューを使用して変更を加えることができるものもあります。[Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] については、該当する電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone User Guide』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、「IP Phone サービスの設定」(P.75-1) を参照してください。

電話サービスへの加入、電話サービスの更新、および電話サービスの加入解除の詳細については、次の項を参照してください。

- 「サービスへの加入」(P.67-39)
- 「サービスの更新」(P.67-40)
- 「サービスの加入解除」(P.67-41)

## サービスへの加入

管理者（またはエンドユーザ）は、エンタープライズ登録としてマークが付けられているサービスには登録できません。[エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] 列が [IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウに表示されます。この列に [はい (true)] と表示されている場合、管理者（またはエンドユーザ）はサービスに登録できません。サービスがエンタープライズ登録としてマークが付けられている場合、そのサービスは電話機に自動的に表示されます。ただし、そのサービスを [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウで無効にしている場合は表示されません。

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

必要に応じて、Cisco Unified Communications Manager に IP Phone サービスを追加します。詳細については、「IP Phone サービスの設定値」(P.75-1) を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

- ステップ 3** サービスを追加する電話機を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。  
この電話機用の、登録済みの IP Phone サービスのウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。  
選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、[戻る (Back)] をクリックし、**ステップ 5** を繰り返します。
- ステップ 7** 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。
- ステップ 8** [登録 (Subscribe)] をクリックします。  
サービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストに表示されます。
- ステップ 9** 別のサービスに加入する場合は、[登録済みサービス (Subscribed Services)] 領域の [新規サービスを登録 (Subscribe a New Service)] リンクをクリックします。**ステップ 5** ~ **ステップ 8** を繰り返します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービス パラメータ値を更新できます。

#### 手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** サービスを更新する電話機を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5** [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。
- ステップ 6** 該当するパラメータを更新し、[保存 (Save)] をクリックします。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** 電話機を特定するための検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
  - ステップ 3** サービスを削除する電話機を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
  - ステップ 5** [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。
  - ステップ 6** [登録解除 (Unsubscribe)] をクリックします。  
サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。
  - ステップ 7** 登録を解除するには、[OK] をクリックします。元の設定値に戻すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
- 

### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## サービス URL ボタンの設定

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、天気や株価などの情報サービスにアクセスできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、サービスを電話ボタン (スピードダイヤル ボタン) で利用するように設定してから、電話機でそのボタンを設定できます。お使いの電話機のモデルの『Cisco Unified IP Phone User Guide』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、「IP Phone サービスの設定」(P.75-1) を参照してください。



### ヒント

サービスを設定する場合は、メッセージ、ディレクトリ、サービスのいずれかのボタンの下にそのサービスを表示するかどうかを指定します。お使いの電話機のモデルにメッセージ、ディレクトリ、サービスのいずれかのボタン/オプションがある場合、サービスはスピードダイヤル用の電話ボタン (サービス URL ボタン) に加えて、これらのどのボタンの下にも表示できます。エンタープライズ登録としてマークが付けられているサービスは、サービス URL ボタンに追加できません。

## サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

**始める前に**

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager にサービスを追加してください。詳細については、「[IP Phone サービスの設定値](#)」(P.75-1) を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、「[電話ボタン テンプレートの設定値](#)」(P.73-1) を参照してください。
- サービスに加入してください。「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.67-39) を参照してください。

**手順**

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** サービス URL ボタンを追加する電話機を選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加 (Add a new SURL)] リンクをクリックします。  
この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for:)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [ボタンサービス (Button Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスまたは更新するサービスを選択します。
- ステップ 6** [ラベル (Label)] フィールドと [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの値を変更します。
- ステップ 7** 電話ボタンにサービスを追加または更新するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** 使用可能なボタンとサービスがほかにある場合、別のボタンに追加のサービスを割り当てるときは、[ステップ 5](#)～[ステップ 7](#) を繰り返します。
- ステップ 9** このウィンドウを閉じて [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに戻るには、[閉じる (Close)] をクリックします。
- 

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## リモート接続先プロファイルへのコピー

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスで使用される新しいリモート接続先プロファイルに、電話レコードからの情報をコピーできます。リモート接続先プロファイルの設定については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」を参照してください。

**手順**

- 
- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [リモート接続先プロファイルにコピー (Copy to Remote Destination Profile)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- この電話機の [リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」を参照)。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を適用します。
- ステップ 4** [閉じる (Close)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 

**追加情報**

- 「関連項目」 (P.67-47) を参照してください。
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」

## 電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更

電話機を設定し、電話機にカスタムで非標準の電話ボタン テンプレートに関連付けた場合、関連付けられた電話ボタン テンプレート内の電話ボタン項目を変更できます。変更する場合は、この特定の電話機用にカスタマイズされた新しい電話ボタン テンプレートを作成します。新しい電話ボタン テンプレートは、電話ボタン テンプレートのリストに「SEP9999999999-Individual Template」という形式の名前で表示されます。ここで、9999999999 には、電話機の MAC アドレスが指定されます。

**(注)**

電話機に標準の電話ボタン テンプレートが関連付けられている場合、この手順は実行できません。最初に、この電話機にカスタムで非標準の電話テンプレートを関連付ける必要があります。

カスタムで非標準の電話ボタン テンプレートのボタン項目を変更するには、次の手順を実行します。

**手順**

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** 電話ボタン項目を変更する電話機を選択します。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[ボタン項目を変更 (Modify Button Items)] をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示され、(電話機に対する) 未保存の変更は失われる可能性があることが警告されます。電話機の設定に変更を加えた場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、変更を保存してから続行します。

**ステップ 5** 続行するには、[OK] をクリックします。

[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、次のペインから構成されています。

- [関連項目 (Associated Items)] : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられている項目のリストが表示されます。システムによって、リスト内の最初の項目がボタン 1 に、2 番目の項目がボタン 2 に、というように順次割り当てられます。
- [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられていない項目のリストが表示されます。
- [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)] : 電話ボタンに現在割り当てることができない項目のリストが表示されます。

**ステップ 6** 関連付けられた項目の順序を変更するには、[関連項目 (Associated Items)] ペインで項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックしてその順序を変更します。

**ステップ 7** [関連項目 (Associated Items)] ペインから [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、一方のペインで項目を選択し、左矢印または右矢印をクリックして他方のペインに項目を移動します。

**ステップ 8** [関連項目 (Associated Items)] または [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインから [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、いずれかのペインで項目を選択し、対象となる 2 つのペイン間にある上矢印または下矢印をクリックします。

**ステップ 9** ペイン間で項目を移動し、すべての項目が目的の順序になったら、[保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 10** [閉じる (Close)] をクリックして、[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウを閉じます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## 現在ログイン中のデバイスの検索

Cisco エクステンション モビリティ機能および Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能は、ユーザが現在ログイン中のデバイスを追跡します。Cisco エクステンション モビリティ機能の場合、現在ログイン中のデバイス レポートは、ローカル ユーザが現在ログイン中のローカル電話機をトラッキングします。Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の場合、現在ログイン中のデバイス レポートは、リモート ユーザが現在ログイン中のローカル電話機をトラッキングします。

Cisco Unified Communications Manager には、ユーザがログインしているデバイスを検索するための特別な検索ウィンドウがあります。ユーザが現在ログイン中の特定のデバイスを検索する手順、またはすべてのデバイスを一覧表示する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。



[ 電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

**ステップ 2** [ 電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウの右上隅にある [ 関連リンク (Related Links) ] ドロップダウン リスト ボックスから、[ 現在ログイン中のデバイスのレポート (Actively Logged In Device Report) ] を選択し、[ 移動 (Go) ] をクリックします。[ 現在ログイン中のデバイスの検索と一覧表示 (Find and List Actively Logged In Devices) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** データベース内の現在ログイン中のデバイスのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**ステップ 4** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[ フィルタのクリア (Clear Filter) ] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 4** [ 検索 (Find) ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 (Rows per Page) ] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 5** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



**(注)** リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.67-47) を参照してください。

## リモートからログインしたデバイスの検索

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能は、ユーザがリモートからログインしているデバイスを追跡します。リモートからログインしたデバイス レポートは、他のクラスタが所有している電話機のうち、EMCC 機能を使用しているローカル ユーザが現在ログイン中の電話機をトラッキングします。

Cisco Unified Communications Manager には、ユーザがリモートからログインしているデバイスを検索するための特別な検索ウィンドウがあります。ユーザがリモートからログインしている特定のデバイスを検索する手順またはすべてのデバイスを一覧表示する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** [ デバイス (Device) ] > [ 電話 (Phone) ] の順に選択します。

[ 電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

**ステップ 2** [ 電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの右上隅にある [ 関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[ 移動 (Go)] をクリックします。[ リモートログインデバイスの検索と一覧表示 (Find and List Remotely Logged In Devices)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** データベース内のリモートからログインしたデバイスのすべてのレコードを検索するには、ダイアログ ボックスが空であることを確認し、[ステップ 4](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[ フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 4** [ 検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 5** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



**(注)** リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.67-47) を参照してください。

## 電話機の MAC アドレスの表示

メディア アクセス制御 (MAC) アドレスは、Cisco Unified IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリの電話機の場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco Unified Communications Manager では、MAC アドレスは Cisco Unified IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco Unified Communications Manager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco Unified IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。Cisco IP Phone 12 シリーズ、および Cisco IP Phone 30 シリーズまたは Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone 12 SP + および 30 VIP : **[\*\*]** を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示します。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの **[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]** ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、「**ゲートウェイの設定**」(P.66-1) を参照してください。
- Cisco VG224 電話ポート : Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できます。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。設定については、「**ゲートウェイの設定**」(P.66-1) を参照してください。
- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得します。

#### 追加情報

「**関連項目**」(P.67-47) を参照してください。

## 関連項目

- 「**Cisco Unified IP Phone の設定**」(P.67-1)
- 「**電話機の設定値**」(P.67-3)
- 「**電話の移行の設定**」(P.67-31)
- 「**スピードダイヤルと短縮ダイヤルの設定値**」(P.67-31)
- 「**BLF/スピードダイヤルの設定値**」(P.67-32)
- 「**BLF/ダイレクトコールパークの設定値**」(P.67-33)
- 「**Cisco Unified IP Phone の設定**」(P.67-33)
- 「**既存の電話機の設定の別の電話機への移行**」(P.67-35)
- 「**電話機の同期化**」(P.67-37)
- 「**スピードダイヤルボタンまたは短縮ダイヤルの設定**」(P.67-38)
- 「**IP Phone サービスの設定**」(P.67-39)
- 「**サービス URL ボタンの設定**」(P.67-41)
- 「**リモート接続先プロファイルへのコピー**」(P.67-42)
- 「**電話ボタンテンプレートのボタン項目の変更**」(P.67-43)
- 「**現在ログイン中のデバイスの検索**」(P.67-44)
- 「**リモートからログインしたデバイスの検索**」(P.67-45)
- 「**電話機の MAC アドレスの表示**」(P.67-46)

### その他の設定

- 「電話番号の設定」(P.43-1)
- 「ゲートウェイの設定」(P.66-1)
- 「電話ボタンテンプレートの設定」(P.73-1)
- 「IP Phone サービスの設定」(P.75-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」

### 追加情報

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「プログラム可能な回線キー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」